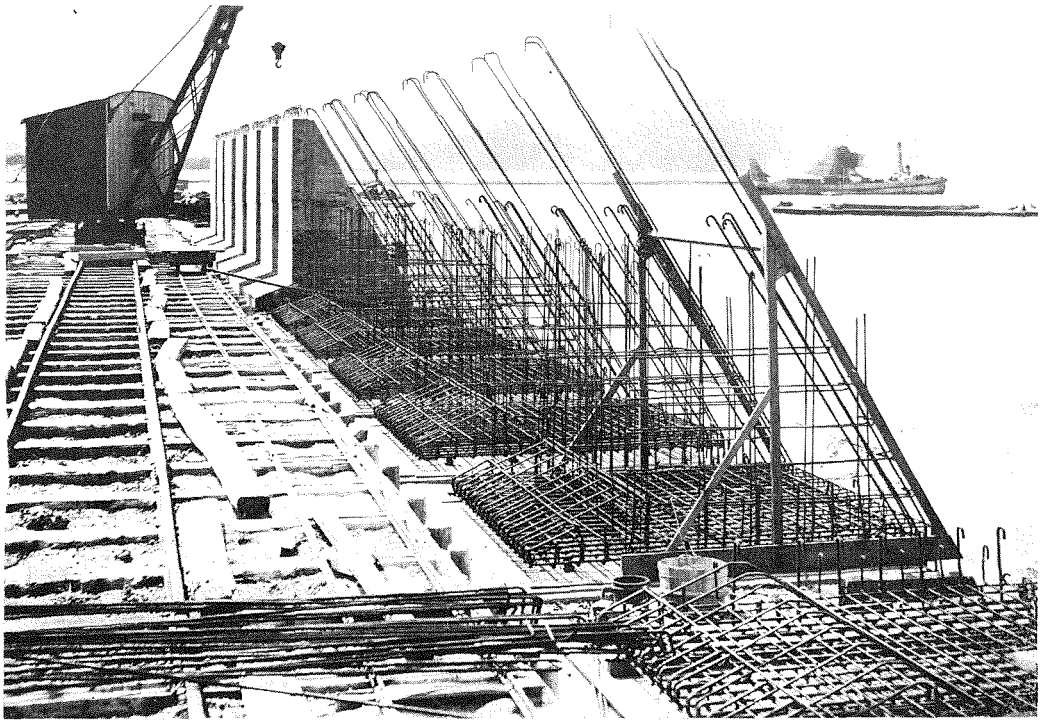
（1） 敦賀港展望　修築工事中の全景である。

敦賀港修築工事概要

內務省名古屋土木出張所長

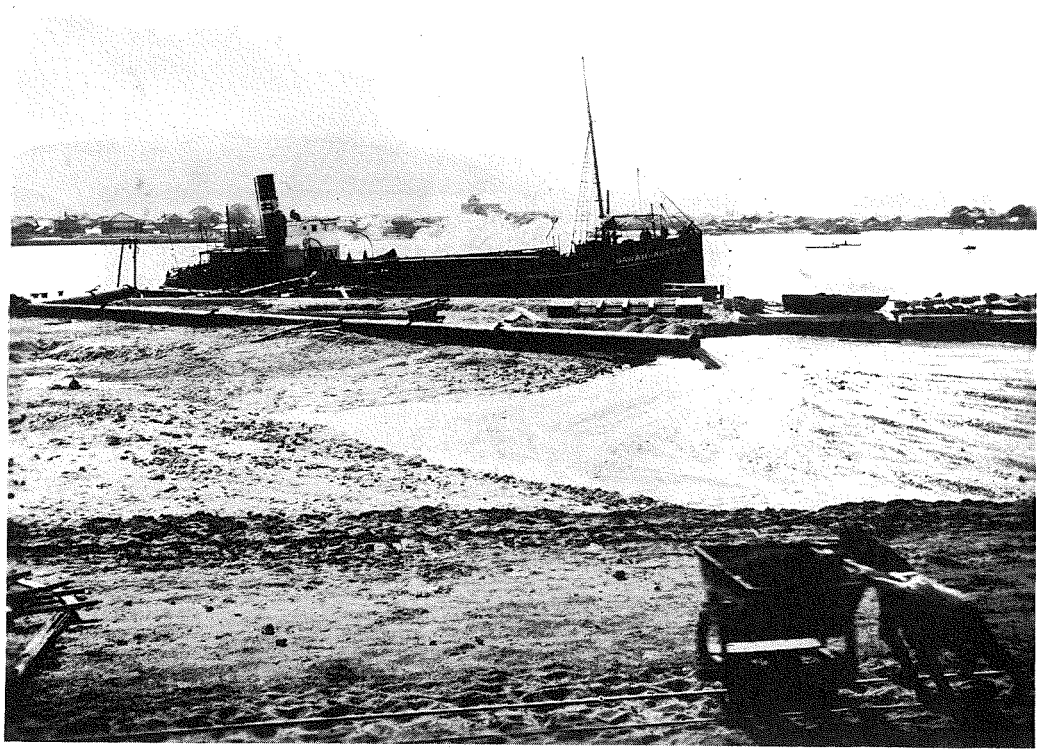
辰馬　鎌藏



（2） **防波堤築造作業**　中埋混凝土打。函の主要な寸法を擧げると、長 18.40 米、高 9.50米、上幅 4.85米、下幅 7.80米、吃治 6.96米 總重量 908.95噸、鐵筋重量 24.98 噸　混凝土容積 371 立米。

敦賀港は古來北海の要衝に方り其地勢東南西の三方は連山にて圍繞せられ獨り北方の一面のみ廣く日本海に通じ港內廣濶にして水深く大船巨舶の碇繫に便なるも此地方に多き偏北風に對し安全なる能はざるを以て曩に明治四十二年より大正二年度迄に工費73萬圓餘を以て金ヶ崎突堤を延長し港內浚渫、埋立、棧橋等當面の急に應ずる施設を爲せしも其後軍事上及經濟上愈々重要の地位を占むるに至りたるのみならず貨客の激增に由り到底從來の設備を以て甘んすべからざるに至れり。是本工事の起れる所以なり。今計畫の大要を示せば左の如し。

防波堤及防砂堤　既設防波堤を同一方向に 511 米延長し北風に對し笙の川見透線以東の水面を掩護す。構造は直立、捨石兩堤よりな



（3） 浚渫船木曾川丸にて埋立工事中の景

り直立堤は鐵筋混凝土函を使用、天端 4,85米水面上の高さ 2,40米を保たしむ。防砂堤は笙の川左岸に長 380 米を新に築造し以て笙の川を港内に抱擁して港内の水面積を擴大し船舶碇繋の便を圖るものとす、構造は防波堤と大同小異にして天端幅は 3米—4 米水面上の高さを 2 米に保たしむ。

岸壁及護岸 兒屋の川左岸より 200 米に 5·45米岸壁を築造し1,500屯級汽船 2艘の繋船荷役の用に充て其西端より長約 223 米に 7.30米岸壁を築造し 300 噸級汽船 2 艘の繋船荷役に供す其構造は鐵筋混凝土函を主體とする重力式擁壁なり 7.30米岸壁の西端より笙の川に達する 163 米並に笙の川右岸に長73米水深 3 米の物揚場護岸を設け小型船の接岸荷役に供す構造は鐵筋混凝土 L 型擁壁を主體とし將來必

（4） **物揚場護岸用L型擁壁製造工場** 擁壁の主要寸法は下の如くである。

長3.00米、高4.50米、幅3.50米、總重量は25.48噸 鐵筋重量1.53噸、混凝土容積が10.40立方米。

要に應じ岸壁に變更可能のものとせり

埋立及浚渫 兒屋の川左岸より笙の川右岸に至る長約589米幅約73米を埋立て其面積約4萬4千平方米を得浚渫は約8萬平方米の水面を7.30米に浚渫し以て水深7.30米以上の水面40萬平方米を得。

尙右の外鐵道省委託工事として施工せるもの下の如し。

岸壁及埋立 既設棧橋西方之に接續して幅平均55米、長164米を埋立總面積約9千平方米を得其前面に水深8.50米の岸壁を築造し6千噸級汽船一艘の接岸荷役に供す、構造は前記岸壁と殆んど同樣のものなり。

右計畫に要する工費內務省362萬餘圓にして鐵道省委託工費43萬4千圓を以て施行するものなり。